

事業所名

若竹園

支援プログラム

作成日

2025 年

3 月

11 日

法人（事業所）理念	成長・発達が気になる就学前の乳幼児を対象に、発達を促すための療育を行い、集団への適応や、基本的な生活習慣の獲得を目指し、子ども一人ひとりに応じた取り組みを行い、また、保護者の方や地域関係者との連携を図り、子どもの豊かな成長を支援します。				
支援方針	園児が生活場面へ自主的に取り組む力を育むことを目標としており、遊びを中心においた指導を通じて、子どものよりよい発達につなげます。また、常に、他の部門及び隣接の琴の浦リハビリテーションセンター附属病院との連携を図り、児童の能力が十分発揮できるように環境を整え療育を実施します。				
営業時間	9 時	30 分から	16 時	0 分まで	送迎実施の有無 あり なし（定点2か所）
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	登園から降園まで毎日同じ流れの中で安定した生活リズムの獲得を目指します。 発達年齢や園での様子を鑑みて身辺自立活動内容を考え促します。 基礎疾患等のある児については、診断名に基づき病気の特性に配慮しながら園生活を安全に過ごせるような環境作りや関わりを行っていきます。 見通しを立てることが苦手の児については、視覚的支援や時間・空間を本人に分かりやすく構造化して関わります。			
	運動・感覚	十分な広さの園庭と遊具を活用した外遊びや、色々な形のマットや一本橋等の運動遊びを通じて体幹や筋力の維持向上、運動能力やボディイメージの向上を促します。 様々な素材や音を使用した感覚遊びを実施していますが、感覚が過敏な児に対しては、その活動から少し離れた場所の提供やイヤーマフの使用などの配慮を行います。 肢体不自由児については、併設の琴の浦リハビリテーションセンター附属病院小児リハ担当職員より運動能力や姿勢などについて助言を受け、運動遊びや感覚過敏への対応などを考える際に取り入れて支援を行っています。			
	認知・行動	活動の中に色・数・形などを取り入れ、認知機能の発達を促します。 言葉だけではなく、写真や絵カード等を用いて視覚的に理解を促し、見通しを持った行動ができるよう支援します。 活動意欲が高まるよう、本人の能力を把握し、達成できる活動を設定、出来た時には十分に褒めるよう支援します。 危険行為についてはいけないことと理解してもらう為しっかりと伝えます。			
	言語 コミュニケーション	コミュニケーションのツールとしてマカトンサインを使用、「人」への発語の促しやコミュニケーション能力の向上を図ります。 理解しやすいよう短い言葉がけで伝え、言語理解につながるよう関わります。  ※マカトンサイン：手指による動作表現。話し言葉と共にサインを組みあわせて提示することによりコミュニケーションを図る。			
	人間関係 社会性	実年齢相応の社会性が身につくような声かけや関わりや環境設定を行い、集団生活に適応できるように支援します。 保育士との信頼関係を深め、仲立ちとなり、友達を意識し、そのやり取りの楽しさを感じられるよう段階を追って支援します。			
家族支援	家庭での状況を聞いたり、日々の保育の様子を伝えながら、個々にあった支援方法を共に考えたり、発達の情報共有、保護者指導を行います。そのために定期的懇談に加え、日々の送迎等保護者と顔を合わす際には様子等を丁寧に聞き取り、別途希望者には相談の場を設けています。	地域支援・地域連携	通園児に関わりのある保健センター、医療機関、他事業所等と連携を図り、情報共有しながら個人にあった必要な支援を常に模索しています。 また、当法人附属病院通院児童より希望があれば、施設見学から利用へとつながる流れを構築しています。		
移行支援	当施設は幼稚園等との並行利用希望児も受け入れています。 並行利用先との情報共有は積極的に行い、スムーズに移行できるよう支援していきます。 また、他園や年長児の就学先からの保育見学にも積極的に応じ、園での様子を実際に観てもらうことにより、移行に向けてより児への理解を深めてもらえる様な対応をしています。				
職員の質の向上	外部研修への参加、その後施設内研修を実施することにより、全職員への申し送りに加え、外部研修参加者の更なる理解の深まりに繋げています。 当法人内附属病院小児リハビリテーション職員より医療的な視点より児童発達への理解を深める助言を受けられる機会が常時あります。 3か月に1回小児科医による発達についての研修の実施、また、上記附属病院職員を交え、児一人ひとりの特性について理解を深める取り組みを実施しています。				
主な行事等	遠足・夏祭り・運動会・学習発表会・卒園式 その他季節に応じた小規模な行事の実施もあります。				